

ことばの
学校

05

はじめてのケチュア語

— アンデス先住民の歴史と文化を学ぶ

南米アンデス地域の先住民の言葉で、「ルナ・シミ（人間の言葉）」と呼ばれるケチュア語。今も先住民の暮らしの基礎であり、ペルーやボリビアなどの国ではスペイン語とならぶ公用語にもなっています。このクラスでは、インカ帝国時代から現在まで脈々と語り続けられてきたケチュア語を学ぶことを通して、先住民の労働、食文化、歌や儀礼が持つ豊かな世界にふれていきます。ケチュア語を話す人びとがどんな歴史を経験してきたのか、そして今どんな変化に直面しているのかについても考えてみましょう。

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週金曜日 19:00～21:00
- 全13回/定員20名 ■ 受講料：38,000円

※ことばの学習の他に、ケチュア語世界により深く踏み入っていくためにトピックを挙げてお話をうかがいます。

講師 & コーディネーター：若林大我（東京大学/法政大学 非常勤講師）

ペルー南部高地の先住民共同体をフィールドに、アルパカをはじめとする家畜の飼育・利用と、民話や口承、儀礼などに表れる世界観との結びつきをテーマに研究。

●参考文献：友枝啓泰『雄牛とコンドル アンデス社会の儀礼と民話』岩波書店 1986/友枝啓泰・染田秀藤（編）『アンデス文化を学ぶ人のために』世界思想社 1997/山本紀夫（編）『アンデス高地』京都大学学術出版会 2007



5/17

オリエンテーション

ケチュア語の世界へようこそ

— ケチュア語の背景とケチュア語話者の地理的ひろがりなをながめる

講師：太田昌国（現代企画室/民族問題研究）

先住民言語を学ぶことの意味を、時代思潮の変化の中で捉えてみます。

●主著：『千の日の夜の記憶』現代企画室 1994/『「国家と戦争」異論 戦時体制下の省察』現代企画室 2004 ●参考文献：ドミティエラ・パリオス、モエマ・ヴィーゼル『私にも話させて アンデスの鉱山に生きる人々の物語』現代企画室 1984/ベアトリス・パラシオス『「悪なき大地」への途上にて』編集室インディアス 2008



5/31 発音と人称

おはなし：アンデス先住民の親族の呼びかたと家族生活

6/14 あいさつ・自己紹介・時間を表わすことば

おはなし：アンデス農村部の人びとの1年

6/28 数詞

おはなし：ケチュア語のポピュラーミュージック・ワイノの世界
— アンデス高地部を中心に

7/12 動物・植物・色を表わすことば

おはなし：農村部の食べ物・暮らし

7/20（土）14:00～17:30

映画を観る

ケチュア語は「近代」の何を暴いたのか

— ボリビア映画を観て知るアンデス現代史

◎上映作品：『コンドルの血』

監督：ホルヘ・サンヒネス/ボリビア/82分/1969年

講師：太田昌国（現代企画室/民族問題研究）

実に面白く、たくさんのお話を語りかける、力強いメッセージ映画です。

●主著：『「拉致」異論 日朝関係をどう考えるか』河出文庫 2008/『テレビに映らない世界を知る方法』現代書館 2013 ●参考文献：太田昌国（編著）『アンデスで先住民の映画を撮る ウカマウの実践40年と日本からの協働20年』現代企画室 2000/『第一の敵 ボリビア・ウカマウ集団シナリオ集』インパクト出版会 1981

9/13 簡単な肯定文・天気を表わすことば

9/27 簡単な否定文・疑問文

10/11

大地と人間を治すアンデスの職能者：クランデーロ

講師：岡本年正（フェリス学院大学 非常勤講師）

アンデスの山や大地への信仰は、特に都市部ではクランデーロ（呪医）を中心に実践されています。彼らの実践からアンデスの人びとの信仰や生活の現代的状況を考えていきます。

●参考文献：実松克義『アンデス・シャーマンとの対話 宗人類学者が見たアンデスの宇宙観』現代書館 2005/細谷広美『アンデスの宗教的世界 ペルーにおける山の神信仰の現在性』明石書店 1997



10/25 よく使う接尾辞

11/8 純粋ケチュア語に触れる

16世紀末～17世紀初頭に成立したと考えられるワロチリ文書は、ほぼ純粋なケチュア語で書かれた貴重な資料です。また、先住民の貴族の家系出身とされるペルーの年代記作者ワモン・ボマの作品にもふれます。

11/22 変わりゆく先住民社会

— 開発、移住、生業の変容

私たちの社会と同様、アンデス先住民の社会も常に変わり続けてきました。現在彼らが直面するさまざまな変化について、具体例を材料に議論してみましょう。

12/13 クロージング・パーティ！

アンデスの料理をみんなでつくり味わいましょう。
※材料費が別途かかります。

ことばの
学校

06

きほんのビルマ語

— 変わる社会と人びとの暮らしを学ぶ

国民の多くが民主化を望むなか、苛酷な軍事政権の支配がつづいたビルマ（ミャンマー）は、2011年以降、テインセイン政権のもと、民主化・国民和解の道を歩み始めました。アウンサンスーチーも政治の舞台に登場し、民主化の旗を掲げて日本で活動してきたビルマの人たちは、母国の情勢を注視しています。多くの日本人も、ビルマの変化に関心を寄せており、なかでも経済界は、ビルマ市場の豊かな可能性、資源、良質で安価な労働力に注目し、進出の機会をうかがっています。注目を集めるビルマとは、いったいどんな国なのでしょう。どんな人びとがどんな暮らしを営んでいるのでしょうか。ビルマ語の基礎をかじりつつ、ビルマの世界に歩み入り、激動するビルマの「いま」を感じてみましょう。

- 2013年5月～12月 ■ 基本的に隔週火曜日 19:00～21:00
- 全14回/定員20名 ■ 受講料：40,000円

※出かける回は交通費・食費などが別途かかります。

講師 & コーディネーター：田辺寿夫 ビルマ名：シュエバ Shwe Ba

（ジャーナリスト/ビルマ市民フォーラム運営委員/NPO「さぼーと21」評議員/NHKビルマ語ラジオ番組・ニュース制作）

大阪外国語大学でビルマ語を学び、ヤンゴン大学に留学ののち、NHK国際局ビルマ語班に半世紀にわたって勤務。難民認定の裁判や民主化運動の集会、結婚式やお祭りなど、在日ビルマ人が集うありとあらゆるところで通訳を担い、活動を共にしている。



5/21 ビルマ語の世界へようこそ

日本語の「あかさたなはまやらわ」にあたる33の文字をじっくりながめてみよう。有気音と無気音は区別され、濁音も入っているから数が多い。字も記号も「まるいをもって美しい」とする、表音でもあり、表意でもある融通無礙のビルマ文字にふれてみよう。

6/4 発音と人称

有気音、無気音の区別、三つの声調の使い分けがやっかいである。しかも、語頭、語中、語尾のどこに来るかで、必ずしも規則通りの発音にはならない。これはもう慣れるしかない。できればビルマ人のゲストに来てもらって、ナマのビルマ語に耳を傾けたい。

6/18 あいさつ・自己紹介

7/2 冠称(名前の前につける言葉)と代名詞

7/16 ビルマを学ぼう① 家族関係とコミュニティ

7/30 食べ物のことば

2011年の東日本大震災直後、ビルマ人たちが被災地まで出向いて避難所でチエッター（鶏肉）・アールー（じゃがいも）・ヒン（カレーあるいはおかず）を作ってふるまったところ大好評だったという。鶏肉のほか牛肉、豚肉、魚などを入れたカレー風の料理を食べることが多い。日本人の口にあうモヒンガー（そうめん風）やオウノウ・カウスエ（ココナッツミルク入りラーメン）など、麺類も豊富である。ああ、パイサーラービー（腹が減ってきた）。



9/3 ビルマを学ぼう② 文学・音楽を味わう

ビルマの人たちは音楽を愛し、文学好きでもある。なかでも詩には幼い頃から親しむ。誰もが詩のひとつやふたつは毎日のように作る。詩は韻をふんでおり、理解するのはかなりむずかしい。でも短いものに挑戦してみたい。歌も聴いてみよう。

9/17 天気を表すことば

10/1 簡単な否定文・疑問文

10/22 ロールプレイングゲーム！

日程調整中 特別企画

ダディンジュまつりに行ってみよう！

ダディンジュ（燈明祭り）は9月、または10月の満月の日、雨季が明け、雨季のあいだ厳しい修行をした僧侶のもとへ行き、捧げものを差し上げ、法話を聴く。燈明に飾られたバゴダにも詣でる。東京では、在日のビルマの人たちが集まって、歌や踊りを楽しむ。時期が合えば、ビルマの人たちとともに楽しみたい。

11/12 ビルマを学ぼう③

変わりゆくビルマ社会の(いま)を学ぶ

いわゆる民主化、国民和解が進みつつある一方で、ロヒンギャ民族弾圧がつづくラカイン州、内戦状況を呈しているカチン州など、少数民族にかかわる問題は解決の兆しが見えない。在日ビルマ人にとっての「帰る」、「帰らない」、「帰れない」の判断も母国の情勢にかかわっている。

写真提供：ビルマ市民フォーラム



11/26 ビルマ語の総おさらい

この講座でどれだけのビルマ語が話せるようになるか、見当がつかない。カタコトでもいいだろう。文法がめちゃくちゃでもかまわない。コトバは恥をかげばかくほど上達する。ビルマの人を呼んで会話をしてみるのもいいだろう。

12/10 料理を食べておしゃべりしよう！

最終回はビルマ料理店で、にぎやかに。高田馬場だけでもビルマ料理、シャン料理、カチン料理などなど、会場候補は目白押しだ。